

杉本達治 福井県知事インタビュー



交流新時代を迎える福井県と中京圏 新PR拠点・名古屋事務所が9月オープン 杉本達治知事に聞く新しい福井の魅力

福井県の産業、観光や名産品PRなどの拠点となる福井県名古屋事務所が9月、名古屋市中村区名駅3-26-8にオープンした。ビジネスマッチングやUIターン就職支援などの情報も発信する。県内では2023年に福井県池田町と岐阜県揖斐川町を結ぶ冠山峠道路（国道417号）が、26年には東海北陸道と北陸道を結ぶ中部縦貫自動車道の大野市内区間（35キロ）がいずれも開通予定で、中部地方からのアクセスが向上、交流新時代を迎える。名古屋で行われた「福井県企業立地・港セミナー」に出席した杉本達治福井県知事に同県の魅力を語ってもらった。

（聞き手／中部財界フォーラム社塚本隆）

——名古屋事務所開設の意義について伺います。

杉本 開設した要因の一つには学生の進学先があります。福井県の高校生の進学先は関西圏に次いで中京圏が多いので、中京圏の9大学と就職支援協定を締結し学生たちの就職支援体制を進めています。2023年には、岐阜県揖斐郡揖斐川町から福井県池田町へ抜ける冠山峠道路が開通。26年には中部縦貫自動車道（*注）も開通します。これらで自動車でのアクセスは非常に良くなります。さらには、27年のリニ

ア開通でインバウンドを含めて多くの人が交流する場所として名古屋そのものが大きな注目を集めています。それらを期待しての事務所開設でもあります。

——名古屋事務所の役割で期待されることは。

杉本 特に注力したいのは3つ。企業誘致とUIターン就職支援、それに観光誘客です。企業誘致はこれまであまり目立っていなかったかもしれませんが、福井県は総合的に有利な土地だと思っています。子供の教育水準が高く、全国学力テストでは小学校6年生が全国3位、中